

授業科目：病理学，口腔病理学

担当教員：浅野 正岳，尾曲 大輔

授 業 の ね ら い	<p>病理学では，日常的な病理診断業務を通じて，細胞の形態や機能の変化を捕らえ，病変の成り立ち，病態，予後など，病気の全体像の理解を図る。実践的な病理組織診断技術の習得を通じて，口腔病理の専門的知識をもって歯科医学の発展に貢献できる指導者の育成を目指す。</p> <p>研究面では、障害を受けた細胞から放出される alarmin の基礎について学修する。また，これに関連してラットおよびマウス脳虚血モデルにおいて，脳をはじめ各臓器における alarmin の発現変化について研究することを目的として，生化学的・分子生物学的研究手技を習得する。これらの学修を通じて，実験計画を立案し，これを遂行し，さらに研究成果を論文として発表できる能力を備えた研究者の育成を図る。</p>
テ ー マ ：	<p>1. 口腔病理標本の診断</p> <p>2. 脳虚血モデルにおける alarmin の発現変化</p>
内 容 ：	<p>日常の診断業務を通じて組織診，細胞診，術中迅速生検等の実際について学修する。また，日本大学医学部などにおける研修を通じて口腔病理認定医試験の受験資格の獲得に向けた準備を行う。研究については，上記2のテーマに基づいた実験を行い，得られた成果を学術雑誌への投稿や学会発表などにより公表する。この過程で，種々の実験手法について学習し，その技術を習得することにより，研究計画を自ら立案し実行する能力を養う。</p>
成 績 評 価 ：	<p>診断能力の判定</p> <p>実験手技の理解度</p> <p>実験の立案，遂行，成績の解釈能力</p> <p>国内外での学会活動（研修参加，学会発表，論文公表など）</p> <p>論文作成能力を勘案する。</p>
そ の 他 ：	<p>抄読会などを通じて英語論文の読み方を指導する。</p>